

<全体分析>

試験時間	120 分	解答問題数	4 題
------	-------	-------	-----

解答形式
記述形式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

小問が多い。

昨年は数学 B からの出題がなかったが今年は大問で 2 題出題された (数列とベクトル)。

その他トピックス

昨年同様数学 III 型との共通問題が 2 題あった ([1] と [3])。

どの大問も 3 問以上の小問からなる。今年ほどの大問も (1) はかなり解きやすく配慮されていた。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]	確率	A	復元抽出	易
[2]	数列 積分法	B II	等差数列、和の計算、数列の最小、定積分	標準
[3]	ベクトル	B	空間ベクトル、正八面体の辺上に頂点をもつ三角形の面積	標準
[4]	微分法 積分法	II II	放物線と直線で囲まれる図形の面積、2つの放物線が接する条件	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

標準的な考え方の問題が中心であるので、各分野の基本事項を身につけ、典型的な問題については誘導がなくても解けるようにしておこう。

融合問題も多く出題されているため、単元を超えた問題演習にも取り組もう。また、計算が煩雑な問題もあるため、普段から最後まで計算しつくすようにしておこう。